

箕輪城跡

(みのわしやうあと)

昭和六十二年二月十七日 国指定史跡
平成二〇年一月五日 追加指定
平成七年一月一日 日本百名城選定

箕輪城跡は標名山の東南麓に広がる独立丘陵上にある。城の南側に存在した標名山と呼ばれる湿地帯など自然の地形を巧みに利用した構造になっています。城内で標高の最も高い一八〇mほどの雲霞山から御前曲輪、本丸、二の丸、郭馬出という尾根上の曲輪を城の中心軸として、線対称的に多くの曲輪を丘陵上に配している他、新曲輪、内宿などの平城部を一部含んだ平山城です。城域面積約三六haと戦国時代の上野国において屈指の規模を誇る城郭でした。昭和六十二年に群馬県の戦国時代を代表する城郭跡として国史跡に指定されました(現在の史跡指定面積は約二二ha)。高崎市では平成一〇～一八年度まで、本丸・二の丸・三の丸・郭馬出など城中枢部を中心に約七〇〇〇mを発掘調査しました。この調査は箕輪城跡を史跡公園として活用するための基礎資料収集を目的として行いました。その結果、最後の井伊直政期を中心に門跡、石垣、石組の排水溝、土塁、堀、堀立柱建物跡が見つかりました。特に堀の規模と虎口(出入り口)周囲の残りのよさが特徴であり、そうした特徴をいかした史跡の環境整備・遺構整備を平成三年度から実施しています。なお、箕輪城跡は平成一七年に「日本百名城(日本城郭協会認定)」に選定されています。

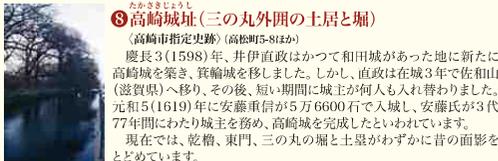


箕輪城跡整備イメージ図

箕輪城に関連する文化財

- 1 鷹留城跡** (高崎市指定史跡) (下室町3238ほか)
 鷹留城跡は明応年間(1492~1500)頃に長野氏によって築城され、永禄9(1566)年に武田信玄との戦いで落城するまでの間、長野氏の居城として構えられました。城跡は南北約430m、東西約200mあり、山城としては県内でも有数の大きさです。また、堀跡などの各種遺構が良好に残っています。
- 2 長年寺長野氏の墓** (高崎市指定史跡) (下室町1380)
 長年寺は、鷹留城主長野氏の菩提寺として知られています。現在、ここには初代鷹留城主の長野業盛をはじめ箕輪城主である長野業政など長野氏累代7人を供養するための五輪塔があります。
- 3 北新波砦址** (群馬県指定史跡) (北新波町210ほか)
 箕輪城主の長野氏に關係する武士の拠点の一つと想定されています。堀と土塁で囲われた郭は、ほぼ正方形で75m四方の規模になります。高崎市教育委員会が平成3~4年度に史跡公園として整備し、現在は一般公開されています。
- 4 長野氏累代の墓** (高崎市指定史跡) (沼川978)
 大正12年頃発見され、現在地に整理し安置したものです。至徳元年(1384)から享禄元年(1528)の銘があり、長野氏が沼川を拠点にしていた頃の石塔になります。
- 5 伝箕輪城主長野業盛之墓** (高崎市指定史跡) (井田町1237)
 永禄9(1566)年に箕輪城は落城し、城主長野業盛は自害したといわれています。江戸時代の書物「箕輪軍記」では、自害した業盛を哀れんだ僧が遺体をもらい、井田の地に葬ったとされています。
- 6 善龍寺の内藤塚** (高崎市指定史跡) (箕郷町原1430)
 寺は武田信玄の箕輪城攻めの際、炎上したと伝えられています。その後、信玄は再興を配下の内藤昌秀(昌豊)に命じ、その子昌月が再建したと伝えられます。父子の五輪塔は寺の南にあり、内藤塚または開基塚と呼ばれています。
- 7 長純寺の長野業政公の像** (高崎市指定重要文化財) (箕郷町宮岡852)
 長純寺は、長野氏の開基による菩提寺です。高さ約35cmの業政の本像は開基堂に安置されています。
- 8 高崎城址(三の丸外開の土居と堀)** (高崎市指定史跡) (高松町5-8ほか)
 慶長3(1598)年、井伊直政はかつて和田城があった地に新たに高崎城を築き、箕輪城を移しました。しかし、直政は在城3年で佐和山(滋賀県)へ移り、その後、短い期間に城主が何人も入れ替わりました。元和5(1619)年に安藤重信が5万6600石で入城し、安藤氏が3代77年間にわたる城主を務め、高崎城を完成したといわれています。現在では、乾槽、東門、三の丸の堀と土塁がわずかに昔の面影をとどめています。

広域図



- 1 龍門寺の山門** (高崎市指定重要文化財) (箕郷町東明中22)
 箕輪城最後の城主井伊直政が開基した寺で、寛政8年(1796)に再建した唐破風作りの山門が残っています。
- 2 石上寺の石造物群** (高崎市指定重要文化財) (箕郷町東明38)
 長野氏が祖と仰ぐ在原業平の草創と伝えられ、箕輪城の鬼門寺といわれています。輪廻の塔(延徳3年(1491))、六地藏石幢(文明6年(1474))、などの石造物が残っています。

交通案内

電 車：JR 高崎駅下車
 群馬バス：高崎駅 西口2番のりば
 ○ 箕郷行に乗りして約30分(箕郷本町下車徒歩約20分)
 ○ 伊香保温泉行に乗りして約30分(小学校前下車徒歩約15分・城山入口下車徒歩約15分・東明屋下車徒歩約15分)
 自 動 車：関越自動車道前橋1Cから史跡箕輪城跡駐車場(箕郷町東明屋582-6)まで約11キロ

日本百名城スタンプ

高崎市箕郷支所・箕郷公民館に設置し、城の現地には置いてありません。

- 高崎市箕郷支所 受付窓口**
 時間：午前8時30分～午後5時15分
 場所：高崎市箕郷町西明屋702-4
 電話：027-371-5111
- 高崎市箕郷公民館**
 休館日：祝日、年末年始(12月29日～1月3日)休館。その他、施設点検等で臨時に休館場合があります。
 時間：午前9時～午後5時
 場所：高崎市箕郷町西明屋421-3
 電話：027-371-3152

○ 高崎市箕郷支所、箕郷公民館は群馬バス箕郷行・伊香保温泉行四つ谷下車徒歩約2分。
 ○ 高崎市箕郷支所、箕郷公民館から箕輪城跡までは徒歩約30分。

発行・お問い合わせ

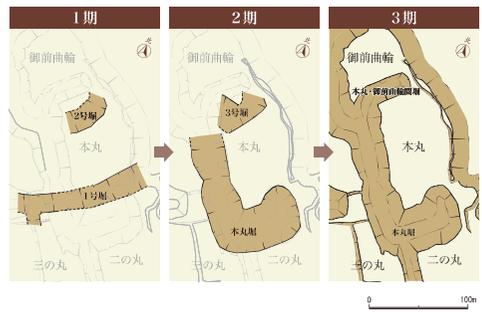
高崎市教育委員会文化財保護課
 〒370-8501 高崎市高松町35番地1 TEL:027-321-1292(直通) FAX:027-328-2295
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/soshiki/ky-bunkazai.html>
 E-Mail: ky-bunkazai@city.takasaki.gunma.jp

平成31年1月第3版発行

本丸周辺の変遷

- 本丸周辺では発掘調査によって、縄張が大きく変遷していることがわかりました。
- 1期一長野氏・武田氏時代の頃**
 現本丸南東側と北西側に堀(1号堀・2号堀)があった時期
 - 2期一北条氏時代を中心とした時期**
 本丸堀と呼ばれている本丸の南東側から西側を巡る堀が掘られ、2号堀が埋められ、新たに3号堀が掘られた時期
 - 3期一徳川氏時代を中心とした時期**
 3号堀が埋められ、本丸と御前曲輪間の堀が掘られた時期

以上のことから、現在見える縄張は、最後の徳川氏時代のものであり、長野氏時代に比べて大きく作り替えられていることがわかっています。



出土品

発掘調査の出土物の大部分は土器になります。特に、使い捨ての器として主に宴会などで用いられた素焼きの皿である「かわらけ」は大量に出土しています。さらに、かわらけの中には北条氏の本拠である小田原からもたらされた「手づねかわらけ」が6点含まれ、北条氏が城主だった時代における小田原との関わりが想定されます。

その他、主に中国から輸入された陶磁器や瀬戸美濃地方(愛知・岐阜県)で焼かれた陶器などは、県内の城跡跡中では唯一の出土品を誇ります。関ヶ原の戦い以前の城郭では関東で初となる茶室(茶の湯)に用いる歌置施軸陶器も出土しており、箕輪城での生活を偲ぶことができます。

戦乱を物語る遺物として、鉄鍬や鉄砲玉なども出土しています。そのほか、硯、石塔、銭などの豊富な出土遺物は当時の武士の生活や文化を知る大きな手がかりとなります。



本丸から出土したかわらけ
 小田原からもたらされた手づねかわらけ
 中国から輸入された磁器
 鉄鍬、鉄砲玉、鏝、鉄鉄部品、刀子、銭
 硯に描かれた武士の絵

城下町周辺

3 東向八幡宮の石幢

(高崎市指定重要文化財) (箕郷町東明屋4)
 東向八幡宮は長野氏が、文明6年(1474)に山城国(京都府)石清水八幡宮より勧請創建し、箕輪城総鎮守として祀られたと伝わっています。本殿北側に石幢(文明6年銘)があります。

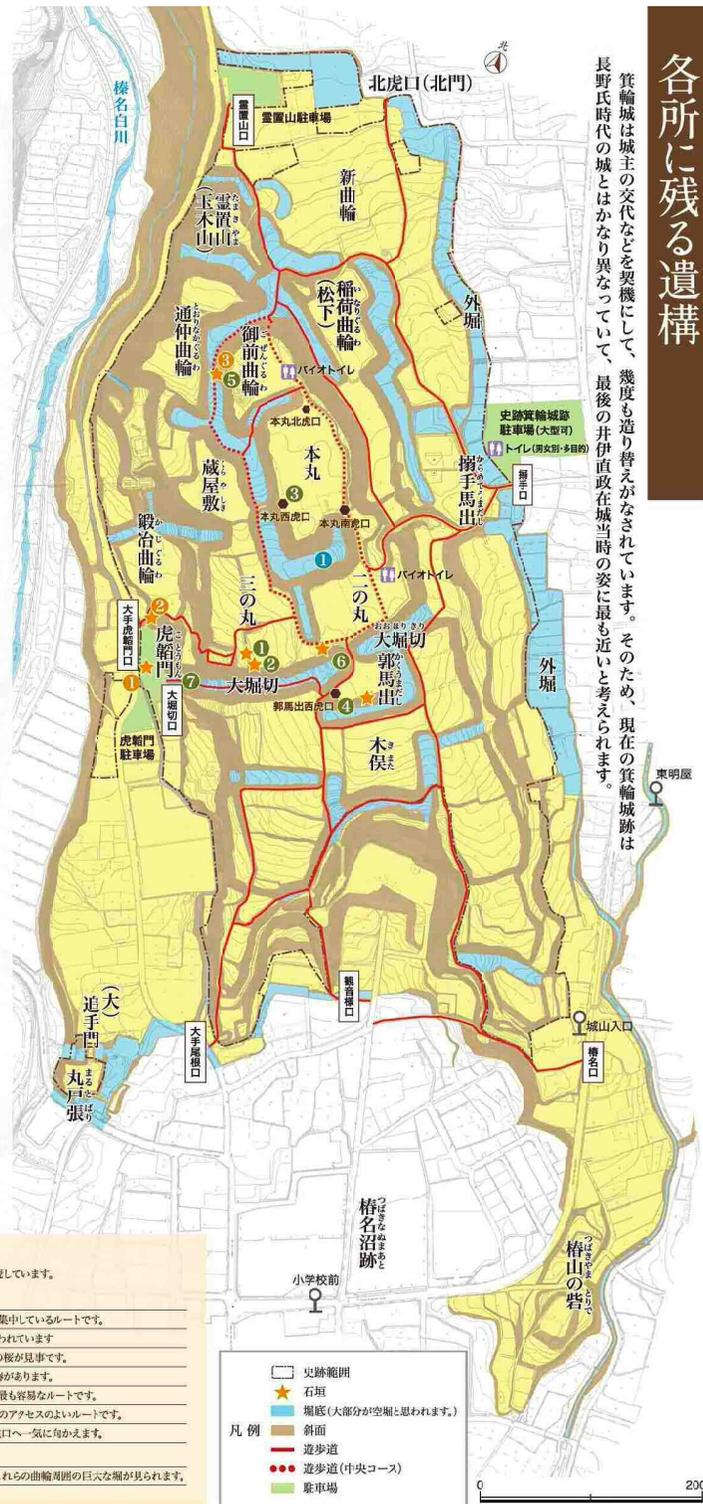
4 旧下田邸書院及び庭園

(群馬県指定重要文化財) (箕郷町西明屋702-2)
 旧下田邸書院及び庭園は、長野氏の重臣であった下田大膳正勝の子孫が落城後この地に土着し、代官として居を構えた屋敷跡です。かつて3町歩にも及んだとされる広大な敷地にあった建物のうち、江戸時代の書院が残り、庭園とともに貴重な近世の様式を今に伝えています。

凡例：□ 現在の地名

各所に残る遺構

箕輪城は城主の交代などを契機にして、幾度も造り替えがなされています。そのため、現在の箕輪城跡は、長野県時代の城とはかなり異なっていて、最後の井伊直政が城当時の姿に最も近いと考えられます。



堀

本丸を深さ○m、幅四○m、長さ○mの空堀や、城中央部を南北に分断する役割がある大堀切など、同時代の城としては全国的な規模を誇る。堀内各所に残っています。一部の堀では部分的な試掘調査を行っています。六m以上埋まっていることがわかり、石垣なども発見されています。当時の堀は現在のおよそ二倍程度の深さで、一部では石垣などが使われていたようです。



石垣

大手門から、本丸へ上がっていくルートにあたる虎籠門・鍛冶曲輪・三の丸の二の丸などには石垣が残っています。その他、郭馬出・御前曲輪西側の堀などにも石垣があります。発掘調査をする上、多くの場所、埋まっていた石垣が発見され、城の主要部のかつかりの場所では石垣が使われていたと考えられます。これらの石垣は野面積みと呼ばれる加工をしていますが、河原石を用いたもので、一人では運べない僅一mほどの石も使われています。箕輪城内では石が取り上げられたため、城のすぐ西を流れる榛名川から運ばれた石垣が、北条氏が使われたのは、発掘調査などから、主に城の最終時期と考えられます。一部の石垣はさらにその時代まで遡ります。



見学コース案内

城跡には7か所の入口があり、いずれも中央の見学コースに接続しています。

●各入口から中央コースまでの距離と所要時間、見所		
大手虎籠門口	270m 10分	三の丸など城内で最も石垣が集中しているルートです。
大手虎籠口	470m 15分	長野県時代の大手ルートといわれています。
観音権口	400m 13分	観音権の石段を登ります。春の桜が見事です。
榎山口	620m 17分	なだらかな尾根道で、一部に堀があります。
榎山口	260m 5分	城の主要部へのアプローチが最も容易なルートです。
榎山口	200m 4分	榎山口と同様に城の主要部へのアクセスのよいルートです。
大堀切口	220m 7分	虎籠門駐車場から郭馬出西虎口へ一気に向かえます。
●中央コースの距離と所要時間、見所		
中央コース	800m 20分	御前曲輪・本丸・二の丸と、これらの曲輪周囲の巨大な堀が見られます。

箕輪城の発掘調査

これまでに行ってきた発掘調査の結果について主なものを紹介します。

① 三の丸の石垣

城内では最も高い四・二mの石垣を確認しました。関東地方では江戸時代に入ると、江戸城など一部の城郭で四mを超えるような高石垣が用いられていますが、それ以前では豊臣秀吉が築いた石垣山城(神奈川県小田原市)など限られた城にのみ確認されています。箕輪城が北関東の要の城にふさわしい形で改修されたことが石垣からうかがえます。



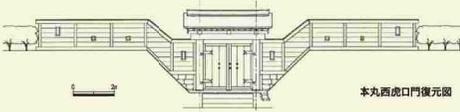
② 三の丸の下層の石垣

①の下層で確認された古く、時期の石垣で、大堀切に平行して残っています。最高一三mの高さで、一人では運べないほどの石を用いるなど、城郭時代の石垣と比較すると大々相違があります。同様に特徴を持つ石垣が、北条氏形が城主を兼任していた鉢形城跡(埼玉県寄居町)でも見つかっています。(埼玉県寄居町)でも見つかっています。



③ 本丸西虎口

蔵屋敷から本丸に架かっていたと推測される木橋を渡った所で、幅三・九四m、奥行一・五四mの門跡を確認しました。礎石は全部で四石あり、その配置から一階建ての高門と推測されます。本丸に入る三か所の虎口のうち、唯一木橋を渡ってはいれる虎口で、間口(扉部分の幅)については本丸の中で最大です。全国に現存する城門や城絵図を分析し、下図のように考証されました。今後この門を復元していく計画になっています。



④ 郭馬出西虎口

大堀切に唯一ある土橋を、二の丸から南に渡ると五二m・三七mの曲輪があります。南側に出撃する拠点の役割があり、郭馬出と呼ばれています。平成一四年度に発掘調査し、西側の虎口で幅五・七三m、奥行一・四八mの門跡を確認しました。礎石の配置から一階建ての構門と推測され、関ヶ原の戦(一六〇〇年)以前には、門柱を据える礎石は全部で八石あり、屋根から落ちる雨水を受けるための排水用の溝も極めて良好に残っていました。平成二八年一月には復元工事が完成しました。



箕輪城の歴史

西暦一五〇〇年前後に長野氏が築城しました。後の系図によると、兼光・兼光・兼光の四代が箕輪城を本拠にして、と考えられています。ただし近年の研究では、方業(業)が、業(業)と業(業)とが指摘されています。また、兼光の弟業(業)は、高崎下室田町を築城し、長野氏の族ではないかという指摘もなされています。長野氏は武田氏の西上野侵攻に際して、箕輪城を本拠として最後まで抵抗しましたが、永禄九年(一五六八)に難攻不落だった箕輪城もついに武田信玄に落とされました。その後は、武田氏、織田氏、北条氏、徳川氏といった戦国大名の拠点として、各大名の有力臣が配置され、特に最後の城主井伊直政は、徳川家康の家臣の中で最大石高の二万石で封じられています。その八年後の慶長二年(一五九八)、井伊直政は城を高崎に移し、箕輪城は廃城になりました。

年代	箕輪城主	主な出来事
1454年(享徳3)・1482年(文明14)		享徳の乱で関東地方が戦国時代へ。
1500年頃		この頃、箕輪城築城。
1524年(大永4)	(長野業政など)	箕輪の長野方業が総社城主長尾頼景を攻める。この年までに箕輪城は築城されている。
1552年(天文21)	長野	関東管領上杉憲政、北条氏に攻められ、平井城(藤岡市)を迫られる。
1560年(永禄3)		桶狭間の戦い(織田信長、今川義元を破る。)
1561年(永禄4)		この頃から、武田信玄が西上野に出兵する。
1566年(永禄9)		武田信玄、箕輪城を落とす。
1573年(天正元)	(内藤昌秀など) 武田	室町幕府滅亡(信長、足利義昭を追放する。)
1575年(天正3)		長篠の戦い(信長・徳川家康が、武田勝頼を破る。)
1582年(天正10)	(滝川 北条氏邦など)	信長重臣の滝川一益が箕輪に入城するが、間もなく北条氏邦が城主。信長、武田氏を滅ぼす。本能寺の変(信長死す。)
1585年(天正13)	豊臣	豊臣秀吉、四国平定。秀吉、関白に。
1590年(天正18)	(井伊直政)	家康家臣中最も石高の12万石で、井伊直政が箕輪城主に。秀吉、北条氏を滅ぼし、天下統一。
1598年(慶長3)	徳川	直政、城を高崎に移し、箕輪城は廃城に。秀吉死去。



⑤ 御前曲輪西虎口

通仲曲輪から御前曲輪へ渡った場所の虎口部分で門跡を確認しました。礎石は全部で六石あり、その配置から主柱二本を前後四本の控柱で支える四脚門と推測されます。幅二・一m、奥行三・二mの規模になります。門の屋根から落ちる雨水を受けるための溝には、一五六個の石塔の跡が用いられています。

⑥ 大堀切西端付近の石垣

箕輪城を南北に分断する堀で、堀の南側が落とされても城の主要部の北側を守ることで役割を果たしています。この堀を唯一渡ることができるといわれる土橋の基礎部では土留めの役割を果たす石垣を確認しました。



⑦ 大堀切西端付近の石垣

堀に直交し砂防ダムのような役割などがある石垣が堀底付近で確認されました。この調査部分では七m以上堀が埋まっているのがわかっています。

